

読んで、知って、みんなで考える
天竜区協議会だより

特集：中山間地域の医療をとりまく環境について



Vol.02
令和8年3月

ミュージカルチームによる「本田宗一郎物語」
「龍水の都」文化体験プログラム事業

表紙の写真は、毎年秋に上演されているミュージカル「本田宗一郎物語」の一場面。晩年の宗一郎が故郷光明を訪れ、子どもたちの遊ぶ姿に、自分の幼い頃を重ねた思いを馳せるシーン。それをそっと優しく見守る妻さち。(今年もさち婦人を演じられるよう頑張りたいと思います。)



天竜区協議会
副会長 村井 教子

天竜区協議会には、天竜文化協会の代表として参加させていただきました。地域で開催されるさまざまな文化活動に関わる中で思うことは、これから先、増々進化発展していくAIの世界があったとしても、「生の人間でしかできない！」文化活動（芸術活動）であって欲しいということです。そして、その人がその土地（地域）でその人らしく生き生きと暮らしていける天竜区であって欲しい！
そのためには、今、とりまくさまざまな問題や困りごとなど、小さな気づきを持って生活し、それを皆で共有、理解、要望、意見を重ねていくことの大切さを改めて感じた協議会でした。

天竜区協議会委員について（令和6年9月1日～令和8年3月31日）

- | | |
|--------------------------|------------|
| 天野 則子：天竜商工会 | 春野2期 |
| 伊賀 康司：天竜区自治会連合会 | 龍山1期 |
| 市橋 秀和：天竜区自治会連合会 | 佐久間1期 |
| 井上 保典：天竜区自治会連合会 | 水窪1期 |
| 上平 安利：遠州中央農業協同組合 | 春野1期 |
| 内野 永士：天竜区自治会連合会 | 天竜2期 |
| 梅澤美百合：浜松市天竜区更生保護女性会 | 水窪1期 |
| 海老原政彦：公募 | 天竜1期 |
| 太田さをり：浜松市天竜区地区社会福祉協議会連絡会 | 天竜2期 |
| 尾上 直秀：浜松地域森林組合協議会 | 春野1期 |
| 小泉 孝保：浜松市スポーツ協会天竜支部 | 天竜1期 |
| 進藤 博行：天竜区自治会連合会 | 春野2期 (会長) |
| 鈴木ひかり：天竜区自治会連合会 | 天竜1期 |
| 高氏 秀佳：天竜区自治会連合会 | 佐久間2期 |
| 豎山 正之：公募 | 龍山1期 |
| 土田 哲也：天竜区自治会連合会 | 天竜2期 |
| 吹野 桂子：天竜区自治会連合会 | 龍山1期 |
| 牧内 真美：天竜区自治会連合会 | 水窪1期 |
| 松本 常志：天竜区自治会連合会 | 春野2期 |
| 三須 富美：天竜区観光協会 | 春野2期 |
| 南屋 裕康：天竜区自治会連合会 | 水窪1期 |
| 三室 正夫：天竜区自治会連合会 | 龍山1期 |
| 村井 教子：天竜文化協会 | 天竜2期 (副会長) |
| 村瀬 純子：天竜区自治会連合会 | 佐久間2期 |
| 柳澤 光子：天竜区自治会連合会 | 春野1期 |

天竜区協議会について

天竜区協議会は、天竜区の暮らしをより良くするために、地域の代表者が集まり、区の課題や未来について話し合う市民参加の会議です。医療・交通・子育て・観光・中山間地域の生活環境など、天竜区の大切なテーマを取り上げ、市からの提案に意見を述べたり、地域からの声を市へ届ける役割を担っています。会議は傍聴もでき、議事録も公開されています。地域の今とこれからをつくる“天竜の相談役”として、市民のみなさんとともに天竜区の魅力あるまちづくりを進めています。

※本たよりは、天竜区協議会委員により編集・発行されています。



詳しくはこちら

天竜区協議会事務局 ※ご意見などありましたら、お気軽に声をお寄せ下さい。

天竜区役所区振興課
〒431-3392 浜松市天竜区二俣町二俣481番地 電話 053-922-0013
Eメール tn-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp FAX 053-922-0049

傍聴について

区協議会は傍聴することができます。開催日程は、市ホームページまたは電話で確認してください。希望する場合は、事前に事務局まで連絡してください。(傍聴は、先着順で受け付けます) 会議の詳細は、市ホームページまたは区役所情報公開コーナーでご覧いただけます。

市HP▶天竜区協議会 検索

つながりが支える、天竜区の暮らし

今回の特集は「医療」です。医療をとりまく環境は多岐にわたり、様々な問題や課題がある一方で、それを解決するための努力も続けられています。協議会の委員の方々に日頃感じている事や、問題解決への取り組みなどを紹介してもらいました。

安心して住める町 (天竜区協議会委員 佐久間在住 村瀬純子)



私たちの町、佐久間町には佐久間病院があります。そこでは、365日、24時間、いつでも診てくれて、緊急な場合は救急ヘリが出動してくれます。まさに安心して住むことができます。これも佐久間の医療機関の方々、またこれまで、献身的に携わってこられた諸先輩方のおかげと感謝しています。

佐久間町は医師不足だったため、昭和30年代から医師の確保に積極的に取り組んできました。と同時に、住民の健康の維持管理と健康増進に向けて、保健師の確保にも力を入れてきました。そして、国に先駆けて健康診査や健康教育、家庭訪問等に取り組み、佐久間病院を中心として、医療、保健、福祉が一体となって町民の健康を守る事業を実施してきました。

今は安心して住める状況ですが、今後を考えると人口が激減している現実から、佐久間病院が現状を維持できるかが懸念されます。

地域で過ごしていくための、自分でできる安心の確保 (天竜区協議会委員 春野在住 柳澤光子)



少子高齢化による人口減少が進み、子供だけでなく、隣家の人の姿を見る機会も少なくなりました。家の近くを行き来する車の音さえ減り、この先いつまでこの町で暮らし続けられるのかと考えることが増えています。

交通の便が良く、医療機関や商店、金融機関が近くにあることは、安心して暮らすための大きな条件です。しかし、現状ではそれを十分に満たすのは難しい地域でもあります。

それでも、「自分でできる安心の確保」は必ずあります。まず大切なのは、健康を保つこと、そして病気があっても上手に付き合いながら、自分でできる身の回りのことを続けていくことです。また、地域の中で小さくても役割を持ち続けることが、生きがいにも安心にもつながります。

さらに「自分はこうして暮らしたい」「いざという時はこうしてほしい」と言った思いを、家族やかかりつけ医に伝えておくことも重要です。

「人生会議手帳」などを活用し、自分の意思を共有しておくことで、急な場面でも困らずに対応できる安心が生まれます。みなさんにとっての「安心の確保の第1歩」は、どのようなことでしょうか。ひとりひとりの小さな一歩がつながり、中山間地域を支えていく力になると感じています。

病院通いの負担を、地域の志で温かな安心へ (天竜区協議会委員 水窪在住 牧内真美)

通院のために飯田線を利用する水窪の高齢者にとって、診療後の「薬の待ち時間」は切実な問題です。一本電車を逃せば、帰宅が数時間遅れることも珍しくありません。この課題を解消するために、杏林堂、そして水窪でスマホショップを運営し、住民のデジタル活用を支える笹本さんが手を取り合いました。

診察後、処方箋を杏林堂へFAXし、原本を専用ポストへ。後日、笹本さんのサポートを受けながらスマホで「オンライン服薬指導」を受けることで、駅での長い待ち時間を解消する仕組みを整えたのです。

この取り組みの根底にあるのは、「住み慣れた場所での暮らしを守りたい」という強い志です。市街地から通いながらも、誰よりも住民の不安に寄り添う笹本さんのような存在が、医療と地域を繋ぐ架け橋となっています。不便さを、人の情熱と技術で温かな安心へと変えていく。そんな挑戦が今、水窪の日常を支え始めています。



山間地での救急搬送の大切さと難しさ (天竜区協議会委員 熊在住 海老原政彦)

山間地に住んでいると、救急搬送の大切さと難しさをいろいろと考えさせられます。以前救急車が勾配と急カーブのために、急患の家に辿り着けないという事がありました。その後天竜消防署ではそのような事が想定される場合には、小型車両と救急車の2台で対応してもらえるようになりました。

また救急搬送の頼みの綱とも言えるドクターヘリのランデブーポイント(場外離着陸場)が、くまの場合が一番南に位置する集落にあり、遠い集落からは車で20分以上かかります。そしてその場所を維持するために、集落や地区の方々のボランティア作業も欠かせません。少子高齢化が進む中、地元の方だけでは維持が難しくなる事も予想されます。こうした課題や不安について、私たちの声をしっかり行政に届ける事が、山間地での暮らしを守る事につながると思います。



中山間地域を支える空のライフライン「はまかせ」(天竜区協議会委員 二俣在住 土田哲也)



中山間地域で暮らしていると、「時間」の重みを強く感じる場面があります。山や川に囲まれた地域では、救急車の到着にどうしても時間がかかり、一分一秒が命に直結することも少なくありません。そんな状況の中で、多くの命をつないできたのが浜松市消防航空隊「はまかせ」です。令和6年度、はまかせの出動は天竜区が88件と、浜松市全体の約67%を占めており、浜松市全体を空から支え続けています。

事故種別や年齢区分を見ると高齢者の搬送が多く、天竜区に暮らす高齢者にとって、はまかせはまさに無くてはならない存在であることが分かります。実は、私の父もはまかせの初代パイロットの一人でした。天竜区をはじめとした中山間地域から多くの方を病院へ運び、厳しい現場で命と向き合ってきました。はまかせは今も、地域に暮らす私たちが安心して日常を送れるよう、浜松市全体を空から支え続けています。